



【 今回の試験について 】

プラチナクラスは相談員および介護支援専門員の知識・技術を要し、個別介護プランの起案・実施ができ、お客様やその他専門スタッフへの説明ができることが求められています。下記事例と問題に基づき講義・実演を行いなさい。

【 メモ 】

【 事例 】

■村山 愛助（むらやま あいすけ）様 男性 78 歳 要介護3 障害高齢者の日常生活自立度：A1

半年前に脳梗塞を発症し、市内の病院に入院。後遺症として左半身麻痺となる。退院後は、在宅生活復帰を目指して老人保健施設にてリハビリを行うが、在宅生活に戻れるほどの機能回復が見られないことに加え、妻も 85 歳と高齢であることから（子どもなし）、在宅生活への復帰は困難と判断され特別養護老人ホームへ入所となる。

[ADL 状況]

- 起き上がり：持つところがあれば自身で起き上がることができる。
- 座位：ベッドサイドレール等、支えがあれば安定。
- 立位：手すりなどをもって可能。転倒のリスクあり。
- 移動：スタッフ付き添いのもと杖歩行もしくは伝え歩き。長距離移動時は車イスを使用。
- 更衣：声をかけて促すことで、ボタンの留め外しや袖通しは可能。
- 認知度：軽度の物忘れ程度。 認知症高齢者の日常生活自立度：I
- 排泄：尿意・便意あり。日中・夜間ともリハパン＋パット使用。 排泄時は一部介助が必要。
日中はトイレにて排泄し、夜間はベッドサイドのポータブルトイレにて排泄。
- 本人の希望：杖を使って一人で歩けるようになり、住み慣れた自宅で以前のように暮らしたい。
普通の下着を使用し、一人でトイレをできるようになりたい。 妻に迷惑をかけたくない。
- 生活歴：脳梗塞発症前は、妻と旅行や外出に出かけることも多く、夫婦二人の生活を楽しんでいた。
身体を動かすことが好きで、家庭菜園で野菜を作っていた。

■問題 1（設定時間／8 分）

あなたは特別養護老人ホームのユニットリーダーです。今回、新規で入所する村山様の個別介護計画を検討するためにカンファレンスを開催することになりました。村山様の生活課題や長期・短期目標から具体的な支援内容を検討していくにあたり、新人スタッフから「支援内容のイメージがつかない」と声が上がっています。試験官を新人スタッフに見立て、村山様の ADL 状況と**別紙資料を参考にしながら**、以下の事項について**講義形式**で簡単に説明してください。

- ① 介護過程の考え方や目的、一連のプロセスについて
- ② 村山様に対する支援内容についての考え方や具体案

■問題 2（設定時間／5 分）

カンファレンスで決定した村山様に対する支援内容を実施するにあたり、杖歩行時の介助方法について指導することにしました。試験官を新人スタッフに見立て、杖歩行時の介助方法について**実演指導**を行ってください。

[注意事項]

- ※試験の進行は試験官の指示に従ってください。時間配分は試験官によって管理されます。
- ※試験内容が判定でき次第、時間を短縮して試験を終了する場合があります。
- ※試験会場にはホワイトボード、マーカー（黒・赤・青）、必要物品を用意しています。

個別介護計画書

作成年月日 R6年 2月 1日

利用者名 村山 愛助 様

生活全般の解決 すべき課題（ニーズ）	目 標				援 助 内 容		
	長期目標	（期間）	短期目標	（期間）	具体的な支援内容	頻度	（期間）
杖を使って歩けるようになり、トイレも一人でできるようになりたい。 また、ポータブルトイレやリハパン、パットの使用も中止したい。	杖歩行が安定し、妻と外出や自宅での外泊ができるようになる。	1年	①一人で杖歩行で歩けるようになる。	6ヶ月			
			②トイレを使用し一人で排泄できるようになる。	6ヶ月			